

授業科目	観光英語				
担当教員	小宮 富子				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III	
	1	2	1	2	1	2
	◎					

**授業の目的**  
現代社会において観光が国際コミュニケーションの重要な分野になっていることを知り、そこで用いられる英語や観光に関連する英語表現を知り、観光場面での国際コミュニケーションの基礎力を獲得することを目的とする。

**授業の到達目標**  
・日本を訪れる外国人に日本を紹介するための基礎表現を獲得する。  
・観光英語の語彙や基礎表現の知識を獲得する。  
・観光英語表現のリスニング力を高める。  
・観光英語を用いた英会話力を獲得する。

**自修について(予習・復習内容等)**  
・毎回、テキストの予習・復習が必要(合計 30 時間)。  
・観光英語の単語や基本表現の暗記が必要(合計 20 時間)。  
・まとめのテストの準備が必要(合計 10 時間)。

回数	授業計画・内容
1	Tokyo Station
2	Exploring Metropolitan Tokyo
3	Restaurant at Ginza
4	Kakunodate
5	Old Private House in Takayama
6	Hatcho Miso in Okazaki
7	Toyota Automobile Museum
8	Cormorant Fishing
9	Uji Byodoin
10	Kyoto Studio Park
11	International Phone Calls
12	Bakery Shops in Kobe
13	White Heron Castle
14	Ritsurin Park
15	Carms of Miyazaki、全体のまとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
毎回の小レポート 10%、英会話テスト 20%、まとめのテスト 70%、計 100%

**教科書**  
河原俊昭・榎園鉄也・小宮富子他、*Discovering Japan through Tourism English* (観光英語で日本発見!)、英宝社

**参考書・参考資料**  
適宜、資料を配布する

**その他(学生へのアドバイス)**  
間違いを恐れずに英語を使おう。

授業科目	韓国語入門				
担当教員	金 昭鏞				
開講時期	前期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III	
	1	2	1	2	1	2
	◎					

**授業の目的**  
ハングルを習得し、旅行に便利な表現を身に付ける。実際の場面で役立つ実践的な会話能力を身に付け、テキストの読解を通して語彙力、表現能力を高めていく。

**授業の到達目標**  
200 語程度の活用語彙、20 項目程度の文法事項を身に付ける。同時に、ハングル能力検定試験の 5 級に合格することを目標とする。

**自修について(予習・復習内容等)**  
各回 2 時間の予習・復習をする

回数	授業計画・内容
1	授業ガイダンス、基本的な挨拶①
2	基本母音字、基本的な挨拶②
3	基本子音字 (1) 平音・激音、基本的な挨拶③
4	基本子音字 (2) 濃音、ミニ会話①
5	合成母音字 (1)、ミニ会話②
6	合成母音字 (2)、ミニ会話③
7	終声子音字、ミニ会話④
8	連音化法則、ミニ会話⑤
9	ここは韓国です。「～は～です」
10	郵便局ではありません。「～は～ではありません」
11	友達にメールを書きます。丁寧形語尾①
12	図書館で新聞を読みます。丁寧形語尾②
13	兄弟がいますか? 存在詞「ある、いる、ない、いない」
14	どこに住んでいますか? 不規則動詞
15	復習と確認
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
課題 50%、レポート 30%、授業時のワークシート 20%、計 100%

**教科書**  
『かんたん!韓国語』金殷模他 朝日出版社

**参考書・参考資料**  
『ハングルの誕生』野間秀樹著 平凡社新書

**その他(学生へのアドバイス)**  
語学は日ごろの積み重ね。日ごろの授業に積極的に参加すること。

授業科目	スポーツ実技Ⅱ				
担当教員	真木 弘				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ	
	1	2	1	2	1	2
	◎			◎	◎	

**授業の目的**  
「スポーツ実技Ⅰ」に続き、各種スポーツ実践を通して、その種目のルールや特徴、楽しさを理解する。また、体力及び技能の習得・向上を図り、みんなで活動することの楽しさ、チームワークの必要性を知る。それらのプロセスを通して、スポーツに対する積極的な姿勢、コミュニケーション能力、勝利するための創意工夫などを体得し、生涯にわたってスポーツに親しんでいく態度を育成する。

- 授業の到達目標**
1. 実施するスポーツのルールや特徴を説明することができる。
  2. スポーツを楽しみながら、自己の体力及び技能の習得・向上を図ることができる。
  3. 勝利するための方法をチーム内でコミュニケーションをとったり、個人レベルで創意工夫をすることができる。
  4. ケガを予防する方法や環境づくりを理解し、安全に留意して活動ができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
・毎回自分の良かった点、修正すべき点をレポートする。  
・次回の目標を立て実践できるようにイメージトレーニングをする。  
(合計15時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	卓球のレベル分けゲーム(3グループ)
3	グループ別リーグ戦(1) シングルス、ダブルスを行う
4	グループ別リーグ戦(2) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
5	グループ別リーグ戦(3) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
6	グループ別リーグ戦(4) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
7	グループ別リーグ戦(5) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
8	バドミントンのレベル分けゲーム(3グループ)
9	グループ別リーグ戦(1) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
10	グループ別リーグ戦(2) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
11	グループ別リーグ戦(3) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
12	グループ別リーグ戦(4) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
13	グループ別リーグ戦(5) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
14	グループ別リーグ戦(6) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
15	グループ別リーグ戦(7) 勝率上位・下位各2名は入れ替え
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
レポート(35%)、授業時のワークシート(60%)、運動技能(5%)、計100%

**教科書**  
使用しない。

**参考書・参考資料**  
卓球・バドミントン指導書等

**その他(学生へのアドバイス)**  
インターネット等で上手な人の動きを研究し、それができるように考える。とにかく自分で考え、人の意見を聞く。

授業科目	日本国憲法				
担当教員	竹内 典夫				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ	
	1	2	1	2	1	2
	◎					

**授業の目的**  
憲法は、我国のもっとも重要な基本法である。そこで、憲法の基本的な知識と法的思考力の習得を目指す。  
本講義では現実社会に生じている憲法的・法律的な出来事をもとにして進めていき、実社会で役立つものになることを目指す。そのため、最高裁判例や通説の理解を中心に平易な内容になるよう努める。また、就職試験においても実践的に役立つ内容を目指す。そこで、人権論を中心として統治論にも言及していく。

- 授業の到達目標**
1. 憲法上の人権論が理解できること。
  2. 主要な事件についての判例の結論と理論が理解できること。
  3. 紛争予防という観点が理解できること。
  4. 主要な国家統治制度が理解できること。

**自修について(予習・復習内容等)**  
教科書の該当箇所を読んでおくこと。(各回1時間)また、新聞・テレビ等で報道された社会的・法律的出来事に注視すること。(各回2時間)  
試験対策・レポートの作成(15時間)

回数	授業計画・内容
1	憲法の沿革と変遷 P18～
2	憲法前文と憲法の基本原則 P35～
3	国民主義と民主主義 P39～
4	基本的人権の享有主体 P87～
5	人権の観念 P80～
6	基本的人権保障の限界 P98～
7	憲法13条と包括的基本権 P118～
8	法の下での平等原則 P127～
9	精神的自由権とその分類 P149～
10	表現の自由とその内在的規制原理 P175～
11	経済的自由と職業選択の自由 P224～
12	受益権・参政権・社会権 P256～・P267～
13	三権分立と国会・内閣 P287～・P322～
14	司法権と国民の司法参加 P336～
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
筆記試験70%と3回のレポート提出30%の総合評価、計100%

**教科書**  
『憲法 第五版』 芦部信喜・高橋和之補訂 岩波書店  
『判例六法』 有斐閣

**参考書・参考資料**  
新社会人へ贈る『ビジネス法務』 山本忠弘監修 嵯峨書院

**その他(学生へのアドバイス)**  
授業には『判例六法』を持参してください。